

荘銀かねやま絆の森

株式会社荘内銀行

フィデアグループサステナビリティ方針

荘内銀行は、「フィデアグループサステナビリティ方針」に掲げる5つの重要な社会課題の解決に取り組むことを通じて、地域社会・地域経済の持続的な発展に貢献するとともに、当グループの企業価値向上を目指してまいります。



荘銀かねやま絆の森 3カ年計画

所在地 金山町大字金山地内 面積：49.65ha
協定期間 第3期 2020年4月1日～2023年3月31日
協定者 荘内銀行、三英クラフト、山形県、金山町
活動内容 荘内銀行は、二酸化炭素の吸収源確保や生物多様性の保全、環境教育の実践と参加者相互のコミュニケーション活性化を目的に、金山町で森づくり活動を展開しています。協定者が連携し、これまで植林、下刈り、裾枝打ち・つる切りなどの保育活動のほか、自然観察体験、林産資源活用体験、木工クラフト体験、再生エネルギー勉強会など、森に関わる様々な体験活動を行い、森林の保全や活用に関する重要性について理解を深めてきました。引き続き森づくり活動を継続するとともに、第3期はSDGsの実践の拠点と位置づけ、持続可能な社会の実現に向けて、森づくりを起点とした地域活性化に貢献します。

年次	活動計画概要	内容
2020年度	・下刈り体験(触) ・SDGsワークショップ(知)	・新型コロナウイルス感染症の影響により開催を見送り
2021年度	・裾枝打ちつる切り体験(触) ・SDGsワークショップ(知)	・「裾枝打ちつる切り体験」は、新型コロナウイルス感染症の影響により開催を見送り ・SDGsをテーマにしたワークショップを実施
2022年度	・枝打ち体験(触) ・生育状況調査とSDGs(知) ・持続可能な街づくり(知)	・荘銀かねやま絆の森での枝打ち体験 ・生育状況調査と結果を受けたSDGsへの学び ・金山町の街づくりによる地域活性化について学習

2022年度の活動について

第3期協定期間(2020～2022年度)は、「森づくりをきっかけとしたSDGsの啓発・実践の場」と位置付けており、枝打ちや木の育成状況調査などの育林作業に加え、金山町の地域活性化についての講義や町探索を実施しました。

枝打ち作業・木の育成状況調査

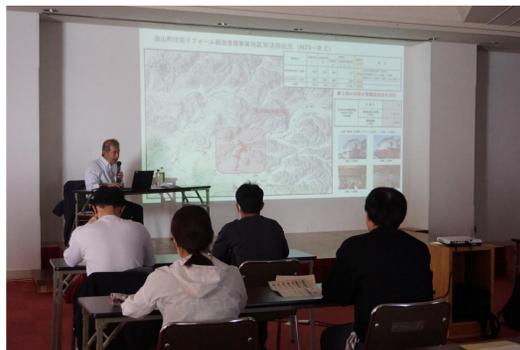
節のない上質な杉にするため枝打ち作業を行い、下枝や枯れ枝を次々と切り落とし整備した後、育成状況を調査するため杉の樹高や胸高直径を測定。やまがた森林と緑の推進機構 浦田氏から、現在の育成状況から推計される、将来スギ材として活用できる量や固定するCO2量についての説明や、企業(銀行)が排出するCO2量との比較をお聞きし、森林を守り育てていくことの重要性について理解を深めました。



講義・金山町探索

金山町役場OBの西田徹氏を講師に迎え、町が実践している「街並みづくり100年運動」など街づくりを起点とした地域活性化についての講義を実施。金山町の特産である金山杉を有効活用した資源の地産地消による地域経済の循環や、特性を生かした街づくりがもたらす効果について学びました。

講義の後は実際に街中を歩き、奥州街道の面影を感じさせる美しい街並みを探索。金山杉を活用したまごころ橋や特徴的な金山住宅、町内を巡る水路網を観光地として整備した大堰公園などをまわり、町民一丸となって実施する持続可能な街づくりへの取り組みを見学しました。



講師：西田徹氏(金山町役場OB)

案内人：株式会社ここら

SDGs啓発事業

SDGsの理解を深め、目標達成に向け主体的に取り組む風土づくりを目的に、従業員向けのオンラインセミナーやワークショップなど啓発事業を実施。

2021年度に開催した従業員向けワークショップ「SDGsアウトサイドイン・カードゲーム」では、CSRインテグレーションの今田裕美さんを講師に招き、参加者は製造業や飲食業、金融など10社の業種になりきり、新規事業を創造・拡大することで社会課題を解決しながら、企業として成長していく過程をシミュレーション。社会課題の解決を起点としたビジネス創出(=アウトサイド・イン)の考え方を実践的に学びました。

ほかにも、フードドライブへの協力や、ソーラーシェアリング施設の見学や講義を通じて身近な再生可能エネルギーへの理解を深めるなど、持続可能な地域社会の実現に向けた取り組みを展開しています。

